

第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭
いしかわ百万石文化祭 2023

皇居三の丸尚蔵館収蔵品展

皇室と石川 —麗しき美の煌めき—



皇室と石川
麗しき美の煌めき

皇居三の丸尚蔵館収蔵品展

鏡玉女奉和歌
秋ふく樹下隠物水
あふやまたり
われこうあともあが
内大臣藤原卿持鏡
一首
玉運流す女美用向

【金沢本万葉集】藤原定信 12世紀 皇居三の丸尚蔵館収蔵
11.5まで 石川県立美術館で展示

【勅撰絵巻群】伊藤若冲 18世紀 皇居三の丸尚蔵館収蔵
11.5まで 石川県立美術館で展示

The Imperial Household and Ishikawa: Brilliance of Elegant Beauty
Masterpieces from The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan

2023.10.14 (土) Saturday — 11.26 (日) Sunday
Closed: November 6, 2023 Hours: 9:30–18:00 (Admission until 30 minutes before closing.)

休館日: 11月6日(月) 開館時間: 午前9時30分～午後6時(入館は閉館30分前まで)
【第1会場】石川県立美術館 / 絵画・彫刻・書跡・刀剣 【第2会場】国立工芸館 / 工芸
主催: 石川県立美術館、国立工芸館、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、宮内庁、文化庁、独立行政法人国立文化財機構
共催: 北國新聞社 特別協力: 越くプロジェクト、読売新聞社、公益財団法人前田育徳会
後援: 石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教育委員会、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

石川県立美術館 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
国立工芸館 National Crafts Museum

第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭 As part of Ishikawa Hyakumangoku Cultural Festival 2023
いしかわ百万石文化祭 2023 (The 38th National Cultural Festival, The 23rd National Arts and Culture Festival for Persons with Disabilities)

文化庁
UNION
UNI-VOICE

会期 2023(令和5)年10月14日(土)～11月26日(日)
会場 石川県立美術館／国立工芸館

開催趣旨

石川県立美術館と国立工芸館は今秋、皇室ゆかりの美術工芸品などを収蔵・展示する皇居三の丸尚蔵館の収蔵品による展覧会を開催します。本展は、石川県で行われる国民文化祭のメイン行事として開催するもので、三の丸尚蔵館の収蔵品のなかから石川ゆかりの作品と、名品の数々を厳選してご紹介します。

まず石川ゆかりの作品では、旧加賀藩主前田家から皇室に献上された国宝《金沢本万葉集》*、八条宮智忠親王に嫁いだ前田利常の娘・富姫^{ふうひめ}の婚礼調度と伝える狩野探幽《源氏物語図屏風》*、そして石川出身の近代工芸の名工である諏訪蘇山(初代)《青磁鳳雲文花瓶》**や松田権六《鷺蒔絵筥》**をはじめとする多彩な作品が並びます。

また収蔵の名品では、伊藤若冲の代表作・国宝《動植綵絵》*や、明治時代の金工の最高水準を示す海野勝珉《太平楽置物》**、そして皇太子(昭和天皇)の御成婚を祝して献上された《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》**など、優美で気品あふれる作品をご紹介します。

三の丸尚蔵館の収蔵品による展覧会は現在各地で開催されていますが、2館合同での開催は、全国初の試みです。第1会場の石川県立美術館では絵画や彫刻、書跡、刀剣を中心に、第2会場の国立工芸館では工芸を紹介し、その他にも石川県立美術館、国立工芸館、公益財団法人前田育徳会所蔵の関連作品を加えた、国宝・重要文化財を含む約120点という最大規模での展示となります。

*は石川県立美術館で、**は国立工芸館で展示予定。会期中、展示替えがあります。

開催概要

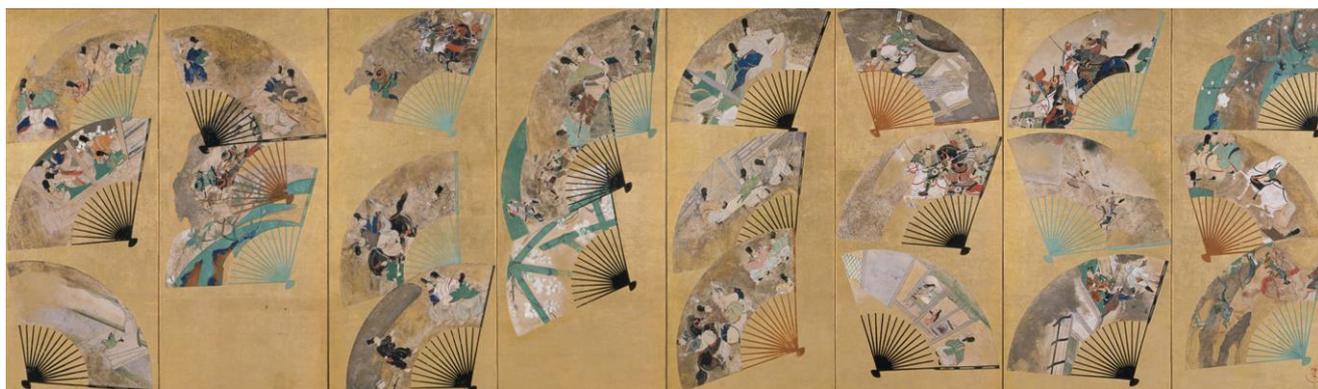
展覧会名称	第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭 いしかわ百万石文化祭 2023 「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川 一麗しき美の煌めき」
会期	2023(令和5)年10月14日(土)～11月26日(日) 前期展示:10月14日(土)～11月5日(日) 後期展示:11月7日(火)～11月26日(日) ※11月6日(月)は展示替休館
開館時間	9:30～18:00 (入館は閉館の30分前まで)
会場	石川県立美術館 (〒920-0963 石川県金沢市出羽町2-1) 国立工芸館 (〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2)
お問い合わせ	石川県立美術館 076-231-7580 https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/ 国立工芸館 050-5541-8600(ハローダイヤル 9:00～20:00) https://www.momat.go.jp/craft-museum/
主催	石川県立美術館、国立工芸館、いしかわ百万石文化祭 2023 実行委員会、 宮内庁、文化庁、独立行政法人国立文化財機構
共催	北國新聞社
特別協力	紡ぐプロジェクト、読売新聞社、公益財団法人前田育徳会
観覧料	2館共通券: 一般 1,500(1,200)円、大学生 1,000(800)円 *高校生以下、18歳未満、障害者手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料 *()内は20名以上の団体料金・割引料金。いずれも消費税込 *65歳以上の方は団体料金・割引料金 *いしかわ文化の日(10/15)、文化の日(11/3)は団体料金・割引料金
特設サイト	https://ishibi-ncm2023.com/

《報道関係のお問い合わせ》

「皇室と石川」展 広報事務局(ユース・プランニングセンター内)担当: 大山、池袋
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4F

Tel:03-6826-8853 FAX:03-6821-8869 E-mail:ishibi-ncm2023@ypcpr.com

見どころ1



広報画像 4

せんめんちらしびようが たわらやそうたつ
《扇面散屏風》 依屋宗達 〈隻替あり〉

宮中伝来品。江戸時代を代表する画家、依屋宗達が制作した「扇絵」の代表作として高い評価を得ている作品。



広報画像 5

ぐんじゅうずびようが まるやまおうきょ
《群獣図屏風》 円山応挙 〈隻替あり〉

江戸時代中期を代表する画家円山応挙が制作。宮中伝来の作。応挙が得意とした動物たちを個性豊かに描く。



広報画像 6

ふそうだいいっほう よこやまたいかん
《扶桑第一峰》 横山大観 前期展示

第1回文化勲章受章者。昭和3年の大礼に際し、衆議院より昭和天皇に献上。美しい墨色で表された荘厳な富士に真紅の朝陽が映えている。



広報画像 7

たいへいらくおきもの うんのしょうめい
《太平楽置物》 海野勝珉

帝室技芸員・海野勝珉の代表作。宮内省の依頼により制作。パリ万国博覧会(明治33年)に出品された明治期の彫金の代表作。

宮殿を飾った絢爛華麗な工芸作品など、 石川にゆかりの名品を数々展示

明治期に輸出工芸の分野で名を馳せた金沢銅器会社によるからはなからくさまんぞうがんばんもりき《唐花唐草文象嵌花盛器》や、加賀象嵌の名工、山尾次吉による《諫鼓形香炉》など、石川県出身の作家たちがたずさわった宮殿装飾の数々が一堂に会します。献上後、初の里帰りになる品も多数展示され、工芸分野を牽引した煌めく石川工芸をお楽しみいただけます。

また、三代加賀藩主前田利常の娘・ふうひめ富姫が、八条宮智忠親王にとしただ輿入れした際に將軍家から送られた《源氏物語図屏風》など、加賀前田家と皇室の歴史を示す逸品も展示します。

展示館：■ 国立工芸館



広報画像 8

せいじほううんもんかびん すわそざん
《青磁鳳雲文花瓶》諏訪蘇山(初代)
帝室技芸員・諏訪蘇山(初代)による青磁の代表作。金沢出身。



広報画像 9

かんこがたこうろ やまおじきち
《諫鼓形香炉》山尾次吉
技巧を凝らした加賀象嵌(ぞうがん)の名品。明治33年の皇太子嘉仁(よしひと)親王(大正天皇)御結婚の折に、住友家より献上。金沢出身。



広報画像 10

さぎまきえぼこ まつだごんろく
《鷺時絵筥》松田権六
昭和32年に、皇居仮宮殿の棚飾用品として制作委嘱された。一連の飾箱シリーズの最初の一つと位置づけられる。金沢出身。



広報画像 11

にわとりおきもの ゆきおゆきお
《鶏置物》由木尾雪雄
明治25年に、宮殿の装飾品の一つとして購入された漆芸作品。金沢出身。

見どころ2

展示館: ■ 石川県立美術館 ■ 国立工芸館



広報画像 12

げんじものがたりずびょうぶ かのうたんゆう
《源氏物語 凶屏風》狩野探幽 前期展示

三代藩主前田利常の娘・富姫(ふうひめ)が八条宮智忠親王(はちじょうのみやとただしんのう)に輿入れした際の婚礼調度。源氏物語五十四帖の総てが描かれている。



広報画像 13

からはなからくさもんぞうがんなはなもりき
《唐花唐草文象嵌花盛器》

金沢銅器会社が制作した花器。加賀象嵌の技術を継承する。



広報画像 14

まんざいらくおきもの
《萬歳楽置物》

とくだや そきち

徳田八十吉(初代)ほか

昭和3年の昭和天皇即位の礼に際し、小松市より献上。制作者のひとりである徳田八十吉は石川県小松出身。



広報画像 15

ちやしんちゅうさんぎんぞうがんぐんかくあしもんかびん
《茶真鍮 金銀象嵌群鶴草文花瓶》

みずのげんろく

水野源六(九代)

明治43年、皇太子(大正天皇)並びに同妃が東京・本郷の前田利為(としなり)侯爵邸へ行啓の際に献上。

国宝指定後初展示となる《金沢本万葉集》など、 皇居三の丸尚蔵館と前田育徳会の名品をコラボ展示

皇居三の丸尚蔵館には、前田家から皇室に献上された作品が所蔵されています。中でも2023(令和5)年国宝に指定の《万葉集巻第二 第四残巻》は《金沢本万葉集》として、つとに知られる名品です。本作をはじめ、旧加賀藩主前田家からの献上品とともに、本展出品作に関連する重文《百工比照》など前田育徳会の名品を併せて展示します。また、徳川家から皇室に献上された《刀(名物 若狭正宗)》と前田家に伝わる国宝《刀(名物 太郎作正宗)》が並ぶのも必見です。

展示館:石川県立美術館

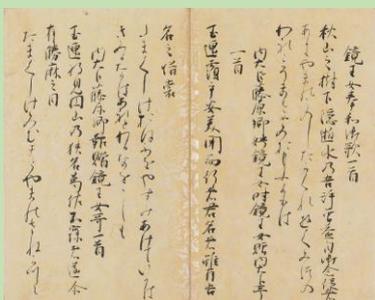
皇居三の丸尚蔵館

前田育徳会

かなざわぼんまんようしゅう

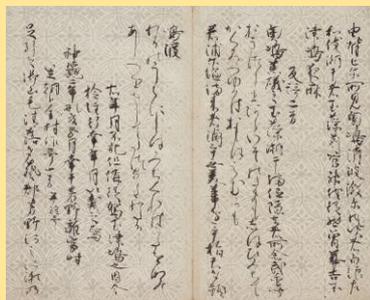
国宝《金沢本万葉集》 藤原定信 前期展示

2023年
国宝指定



広報画像 16

巻第二



広報画像 17

巻第六

明治天皇の前田邸行幸に際し、前田家に伝わる「金沢本万葉集」のうち第二と第四を仕立て直して献上し、手元に残った第三と第六の一部を仕立て直した。

2023年
国宝指定

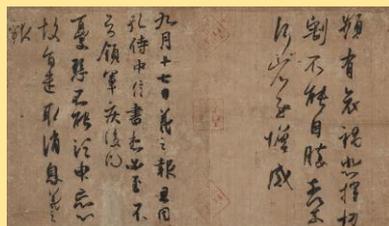
おうぎし

書聖 王羲之 後期展示



広報画像 18

そうらんじょう
国宝《喪乱帖》



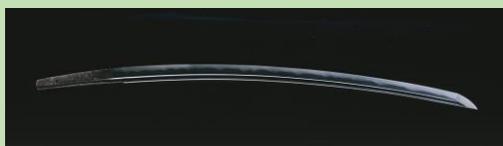
広報画像 19

こうじちゅうじょう
国宝《孔侍中帖》

書聖として名高い王羲之(中国4世紀)の真筆は、唐時代にすべて失われたとされる。ここに並ぶ二点は王羲之の書法を伝える精巧な模本で、今年国宝に指定された三の丸尚蔵館収蔵品と、前田育徳会所蔵の国宝が同時に展示されるのは、大変貴重な機会といえる。

名刀『正宗』

※正宗…相模国で鎌倉時代末期から南北朝時代初期に活躍した刀工。後世の刀工達の作風に多大な影響を与えた名工中の名工。



広報画像 20

かたな めいぶつ わかさまむね

《刀(名物 若狭正宗)》後期展示

後世の刀工達に多大な影響を与えた名工「正宗」の作品の中でも、特に傑作であると評される名刀。



広報画像 21

かたな めいぶつ たろうさくまさむね

国宝《刀(名物 太郎作正宗)》

号は徳川家の家臣であった水野太郎作正重の所持に由来。正宗の作風を遺憾なく示した名刀。

展示館: ■ 国立工芸館

皇居三の丸尚蔵館



広報画像 22

しっぽうこうごう ほうそう げもんよう あんどうじゅうべい
《七宝香合 宝相華文様》安藤重兵衛

七宝技法により鮮やかな色合いで宝相華文を表した気品ある香合。《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》附属の一品。安藤重兵衛は、近代七宝を牽引した。

前田育徳会



ひゃっこうひしろう はなかくぎかくし

重文《百工比照》「花籠釘隠」後期展示
 籠目部分に七宝技法が使われた江戸時代を代表する建築金具。彫金技法とあわせ近代以前の七宝技法の例として貴重。

重要文化財《百工比照》は五代藩主前田綱紀によって収集・整理・分類された工芸見本の集大成である。三の丸尚蔵館収蔵の明治期の七宝と、前田家に伝わる江戸時代の書院建築の七宝装飾を比較展示で味わえる。

近代工芸を代表する名品《御飾棚》が東京「外」で初展示！

皇太子(昭和天皇)の御成婚を記念して、内閣総理大臣以下文武官一同から昭和天皇ご夫妻へ献上され、これまでほとんど皇居の外へ持ち出されることのなかった秘宝「御飾棚(おんかざりだな)」。当時最高の技術を持った芸術家や職人たちによる空前絶後の工芸美を体現する棚が、初めて東京「外」へ持ち出され、そろって展示されます。

展示館: ■ 国立工芸館

広報画像 23



(部分)



広報画像 24



(部分)



ほうおうきくもんようまき え かざりだな つるきりもんようまき えかざりだな しまだよしなり

《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》《鶴桐文様蒔絵飾棚》島田佳矣ほか

当初から、「我が国の当代美術工芸品の最高峰」を目指して制作され、当時一流の技術をもった人々による制作チームが結成された。昭和天皇に献上された《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》には鳳凰が、香淳皇后に献上された《鶴桐文様蒔絵飾棚》には鶴が蒔絵で表されている。本頁掲載の2点(写真下)を含む品々も並陳し、献上当時の壮麗な姿を展示する。



広報画像 25

ちようきんようしきぶんほうぐ やまかわこうじ

《彫金洋式文房具》山川孝次(二代)

金象嵌で唐草模様があしらわれた華やかな文房具セット。《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》附属の一品。作者の山川孝次(二代)は、加賀象嵌名門の出身。



広報画像 26

じきかびん かちょうもんよう いたやはざん
《磁器花瓶 花鳥文様》板谷波山

薄いヴェールをとおして輝くような独特の釉薬使いが注目される。《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》附属の一品。板谷波山は、石川県ゆかりの作家。